

「夜晃先生の教えに学ぶ会」のご案内

今年 2 月に開催された、「僧伽の会」における「住岡夜晃先生ご誕生百三十年記念法要」の後の法話で、岡本英夫先生が、「このお方(夜晃先生)は全部分かっている」といわれました。それは、私たち衆生が持つすべての問題(苦悩の現実)はもちろん、その悲しき存在を救わんがために立ち上がられた如来本願の生起本末のすべてを、身をとおして領解されているということなのではないでしょうか。

夜晃先生は、その領解のすべてを、多くの書物としてお遺し下さいました。したがって、私たちは、その書物を頂戴することで、自己とは何かを知らされ、如来に出遇うことができます。私たちは様々な問題を抱えて現実を生きていますが、夜晃先生の書物の中にその解決の糸口を尋ねることが出来ます。誠にありがたいことです。

夜晃先生をご縁として、真実の教えに触れさせて頂いた私たちは、いよいよ夜晃先生のご恩徳に深く感謝申し上げ、み教えを頂戴していかなければならないのではないのでしょうか。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

総務 林 勉道・寺岡一途

記

- 1 期 日 2025年(令和7年)4月25日(金)～27(日)
- 2 会 場 豊平道場 〒731-1222 広島県山県郡北広島町阿坂 11866-4
(Zoom での参加も歓迎します。)
- 3 日 程

4月25日(金)	4月26日(土)	4月27日(日)
9:15～9:30 勤行・総務挨拶	9:15～9:30 勤行・総務挨拶	9:15～9:30 勤行・総務挨拶
9:40～10:30 自主発表①・質疑	9:40～10:30 自主発表④・質疑	9:40～10:30 自主発表⑦・質疑
10:50～12:00 読書会「自然法爾章」	10:50～12:00 読書会	10:50～12:00 今後に向けて検討
昼食・休憩	昼食・休憩	解散
13:30～14:20 自主発表②・質疑	13:30～14:20 自主発表⑤・質疑	
14:40～15:30 自主発表③・質疑	14:40～15:30 自主発表⑥・質疑	
15:50～16:30 読書会	15:50～16:30 読書会	
夕食・休憩	夕食・休憩	
19:00～20:30 勤行・読書会	19:00～20:30 勤行・読書会	

- 3 参加費 一人一日1,500円(全日程3,000円)
(現地参加：宿泊費500円 朝食400円、昼食(弁当実費)、夕食600円)
- 4 持参物 「新住岡夜晃選集」第5巻(5巻を担当された竹重友子さんの発表があります。)
- 5 申し込み 真宗光明団ホームページ、または総務(林)に、4月20日(月)までにお申し込み下さい。
- 6 読書会 読書会で使用する「自然法爾章」は、右田支部での夜晃先生最後のご講義だと聞いています。申し込みされた方に事前にメール等でお送りします。
- 7 参加費振込先 ゆうちょ銀行 口座番号 01340-7-7798
(会の終了後1週間以内にお願います。)
- 8 問い合わせ先
○メール bendou1@sea.icn-tv.ne.jp (総務 林のメールアドレス)
○電話・FAX 0827-86-0122 ○携帯電話 090-8719-5326

2025年度「夜晃先生の教えに学ぶ会」日程表

4月25日(金)	4月26日(土)	4月27日(日)
8:45～ 入室開始	8:45～ 入室開始	8:45～ 入室開始
9:15～9:30 勤行・総務挨拶	9:15～9:30 勤行・総務挨拶	9:15～9:30 勤行・総務挨拶
9:40～10:30 自主発表①・質疑 熊谷眞由美	9:40～10:30 自主発表④・質疑 栗栖哲義	9:40～10:30 自主発表⑦・質疑 寺岡一途
10:50～12:00 読書会「自然法爾章」	10:50～12:00 読書会「自然法爾章」	10:50～12:00 今後に向けての検討
昼食(自己調達)・休憩	昼食(自己調達)・休憩	解 散
13:30～14:20 自主発表②・質疑 松田正典	13:30～14:20 自主発表⑤・質疑 竹重友子	
14:40～15:30 自主発表③・質疑 原田和男	14:40～15:30 自主発表⑥・質疑 杉田久美子	
15:50～16:30 読書会「自然法爾章」	15:50～16:30 読書会「自然法爾章」	
夕食(自己調達)・休憩	夕食(自己調達)・休憩	
19:00～20:30 勤行・読書会「自然法爾章」	19:00～20:30 勤行・読書会「自然法爾章」	
入浴・懇親会・就寝	入浴・懇親会・就寝	

※読書会で頂戴する「自然法爾章」は、夜晃先生がお亡くなりになる年の昭和24年3月16日から5日間にわたって、山口右田支部15周年記念講習会で講義されたものです。先生の病状は重く、他支部の講座を一切辞退して静養された後、右田支部にのみ来講されました。会座会場においても、先生の病症は増進するばかりで、日夜、身を病床に横たえられながら、また注射を打ちながら、講義の時が来れば身命を賭して講義されたと聞いています。今回は、夜晃先生の血肉の所産であるこのご書物をみなさんと共に頂戴したいと思います。